

町政を問う 9月定例会 一般質問

9議員が質問に登壇！

一般質問とは… 定例会の本会議において、一人の議員として、執行部の政策、施策のあり方の問題点を問いただし、必要な場合は具体的な施策を提案し実行を要請するもので、議員活動の中でも最重要の活動です。

1. 豊瀬 和久議員
2. 山本 富二夫議員
3. 三宮 美香議員
4. 荒木 俊彦議員
5. 山部 良二議員

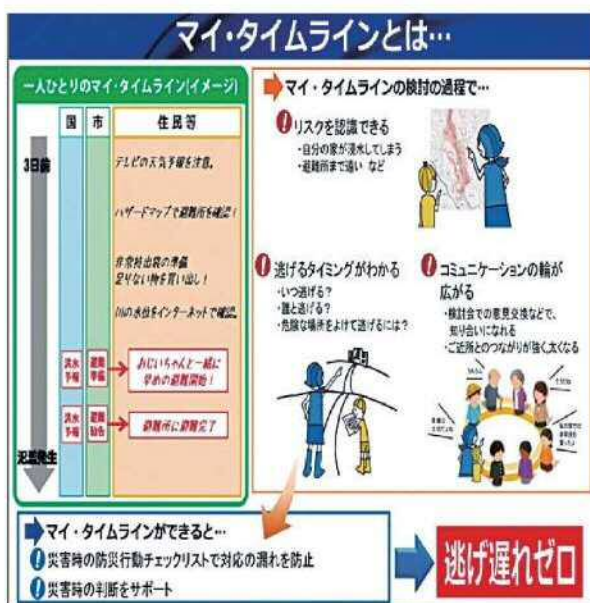
6. 佐藤 真二議員
7. 坂本 典光議員
8. 金田 英樹議員
9. 永田 和彦議員

Q マイ・タイムラインで防災意識社会の構築を

A 自ら判断し、自らの命を守ることは大変重要



豊瀬 和久議員



問 住民が自らの災害時の動きを決めて、確実に逃げるために、自分自身の年齢、住んでいる場所、家族構成などにあったマイ・タイムラインづくりを進めるために、地域でマイ・タイムライン検討会を開き、全町民へ普及させるべきではないか。

さらに、大人だけでなく、小中学生向けのマイ・タイムラインづくりも重要だと思う。

今こそ役場と地域と学校が一体となった命を守る防災の取り組みを進め、防災意識社会を構築していくべきだ。

答 地域の特性に応じ、地域ごとに対応していくことが重要であり、家庭等において、子どもと一緒に災害のリスクについて考え、避難行動の具体的な対応を自分たちで決め、それに基づき、行動していただきたい。

答 自ら判断し、自らの命を守る行動ができるということは大変重要である。

日ごろから備えるという意味において、マイ・タイムラインの考え方は効果的である。

(町長)

その他の質問

- ・町営住宅入居に対しての連帯保証人の取り扱いについて
- ・児童虐待防止対策の強化について
- ・サテライトオフィスの誘致について

Q 県営野球場の大津町への誘致活動を

A 現在のところ考えていない



山本 富二夫議員



岡山県倉敷スポーツ公園野球場

その他の質問

1. 通学路の安全対策について
2. 区長・消防団と民生委員との連携について

問 交通アクセスのよさ、近くには世界の阿蘇山があり、高校野球や、その他のイベント誘致が期待できるので県営野球場の誘致を考えてもらいたい。

答 藤崎台球場は駐車場の狭さの課題がある。そういう状況の中で、菊陽町、合志市等も県営野球場の誘致をしているが県は県営野球場建設は検討していない。

県の動きを確認しながら、大津町に建設する場合の条件などの情報を収集する。

（町長）

答 県内野球関係団体による、新球場建設連絡会が設立され、新野球場建設要望書の提出や署名運動がされ、約二十万人の署名が集まった。

検討会議は県営球場の建設に関しては、議題として審議される状況でない。（教育部長）

Q 小中学生の異常な荷物の重さへの対策は

A 各校の情報を共有し工夫する



三宮 美香議員



ある日の荷物

問 大津町は、学校によっては以前から置き勉を認めている学校もあるが、それでも荷物の重さが、小学生で10キロ、中学生で12・2キロとなる

ことがある。子どもたちからは「重くて肩が痛い」と聞き、保護者からも健康面での悪影響や不審者から逃げられないなど心配の声を聞く。教育委員会として対応を講ずるべきではないか。例えば、モデル校をつくり、きちんと子どもたちの荷物の重さを確認して検証し、学校に置いて帰れる

答 教科書、道具を今よりも明確に表示して増やす。置き場を工夫する。家で使うものと、学校で使うものを2冊使いにする。中学生は自分たちでルールを決めさせるなど、細かくできる取り組みはたくさんあると思うがどう考えるか。

答 各学校で取り組みを行っている。情報を共有し今後検討を行う。自分で考えて行動するなど、発達段階に応じた指導も含めて工夫していく。

（教育長）

その他の質問

- ・幼稚園、小学校、中学校の熱中症対策について

Q 立野ダムによる災害の想定が必要

A 国交省に丁寧な説明をお願いする



荒木 俊彦議員

想定外では済まされない立野ダムによる災害
立野ダムには「洪水調節ゲート」はありません



その他の質問

- ・介護の不安、徘徊事故に保険を
- ・住宅の耐震化補助の充実が必要

問 地域住民の疑問に答えられないまま、国交省は立野ダム着工を強行した。説明責任を果たさない国の行政に怒りを覚える。西日本豪雨で愛媛県「ひじ川」上流の野村ダムの非常放流によって約3km下流の市街地で5人の方が犠牲になられ、2階床までの浸水で650棟で莫大な損害がでた。ところが国は「想定外の豪雨災害」として損害賠償に依拠していない。野村ダムの貯水量と同等の立野ダム上流に想定外の

大雨が降ったら、下流の大津町民に大被害が想定される。国に説明責任を求めておかないと、いざ災害の時、国は想定外として責任を取らない。

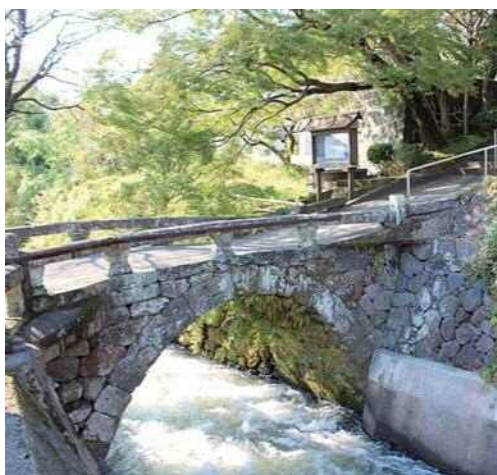
答 立野ダムは穴あきダムで放流口にゲート設備がなく、仮にダムが満水になった場合、ダム堤頂を超えて水が流れるが、有効な洪水対策であると考えてる。現地に行けなかった方もあるので、国交省には丁寧な説明責任をお願いしていく。（町長）

Q 遺産登録を今後の町づくりに活用を

A 世界かんがい施設遺産を今後、PRしていく



山部 良二議員



上井手にかかる石橋

その他の質問

- ・高齢者を貧困化・孤立化させない取り組み
- ・児童虐待の未然防止の取り組み

問 今年の8月15日の熊日新聞にて、白川流域用水群が世界かんがい施設遺産に登録されると報道があった。登録により「かんがい施設の」持続的な活用が期待され、活用の仕方によっては、観光資源として町づくりに貢献でき、子供たちの歴史教材にもなる。また、熊本地震を乗り越え遺産登録されたことは、大津町の宝が世界の宝になった歴史的瞬間ではないか、このことを踏まえ今後の町づくりに生かしていくのか伺う。

答 熊本中流域関連における遺産登録で水田を潤し農業の発展に貢献した。歴史的価値のある農業用水利用施設である。これから地域活性化や観光、子供たちへの歴史教材への活用を考えていく。今後、熊本市、菊陽町と連携ししっかりPRに取り組む。（町長）

この度、上井手及び下井手を含む用水群の遺産が登録され、観光資源として生かされれば、観光客も増え、町にも活気が生まれる。教育委員会としても歴史的な視点から子供たちへの学習教材に活用し、今後も町民に広くアイデアを伺い民間団体との連携も模索する。（教育長）

Q 特定不妊治療への助成制度を

A 実現に向け、検討していく



佐藤 真二議員



(県の助成制度には、治療方法や年齢などにより金額や回数の制限があります。)

町独自の助成があれば……

その他の質問

- ・工事入札落札率の高止まりへの対応
- ・学校施設整備計画の策定
- ・立野ダムのまつぼり風への影響

問 特定不妊治療が非常に増えてきている。当事者は様々な負担を強いられるが、そのうち経済的な負担は、一周期の治療が百万円ほどで、数回繰り返せば数百万円にもなることもあるという。

答 町民からの県への補助申請は毎年30人前後あっている。

治療を受ける方の負担の軽減や、より安心・安全な妊娠・出産に資するという観点から、町としても取り組まなければならない課題と認識している。

支援については他の自治体の状況も踏まえ、実施に向け検討する。

(町長)

Q 荒木元町長の記念碑の件

A 有志でされるなら検討する



坂本 典光議員



Jリーグのキャンプにも使われた

その他の質問

- ・行政事務の司令塔について
- ・攻めの農業のリーダー育成が望まれる
- ・開かれた学校

問 荒木元町長は大津高校長時には、体育コースを設置し、県下から集まった生徒を大志寮に住ませた。平岡監督を招いてからサッカー部は全国大会出場常連校になった。また荒木校長本人が監督として女子サッカー部を全国大会優勝に導かれている。

答 今スポーツの森は大津町の観光振興、経済そして町民の健康増進に大きな役割を果たしている。さらにサッカーの町としての知名度を全国に広めたのも荒木元町長の功績である。

しかしほかの先輩町長との兼ね合いで、荒木元町長だけ公費で記念碑を建てるのは難しい。

有志の皆さんでされるのであれば検討する。

(町長)

Q 全町的視点から見た「スポーツの森駅」新設の意義

A 町の発展のためにも周辺開発は考えていきたい



金田 英樹議員



スポーツの森（大津町運動公園）

その他の質問

・昭和園の再整備による町の魅力向上

問 新駅設置の議論は何度もされているが、主に費用対効果の問題から具体的な計画策定や実現には至っていない。

答 しかし、駅新設には近隣数百メートル圏内に留まらない、全町的な発展が期待でき、投資以上の効果が見込める。大津町が永続的に住みよい地域であるために、今こそ空間的にも時間的にもより広い視点での「先を見すえた具体的な検討」が必要である。

問 試算では駅舎等に約4億円、人件費を含む維持管理に年間約1千万円が必要。簡易の無人駅であれば費用は抑えられる

答 試験では駅舎等に約4億円、人件費を含む維持管理に年間約1千万円が必要。簡易の無人駅であれば費用は抑えられるがハードルは高い。今後、周辺開発が進めば、税収面を含め経済効果が期待でき、さらにはJRの利用者が増加して新駅設置の必要性も高まる。そうならば、JRとも十分協議しながら進める必要がある。

（土木部長）

問 簡易な無人駅であれば、費用も半分以下。

答 「町が計画的な開発を先導する」という力強い思いのもとに調査や議論を進める考えはないか。

答 「開発が進むことで地域が潤う」という考えは理解できる。今後もしっかり検討したい。（町長）

Q 人生100年時代の備えとは

A 時代に合った制度改革とAI革命に期待する



永田 和彦議員



問 社会保障予算をどう確保しながら有効なる福祉政策を町は展開できるのか。今あるデータで将来を予測して事前対策を打つことができるのか。

答 定年年齢設定を無くしたり年金支給年齢の調整も国はもくろむ。人生100年時代となっても人には夢や希望は必要である。人生が20年延びたと喜べる政策が求められる。

問 年々増加し続ける社会保障費をこれからも維持していくためには、それを支える生産人口を確保していくことが大事である。国においても労働力を確保するため、希望

する高齢者が70まで働けるように現行65までの雇用継続義務付け年齢を見直す検討もされている。町は高齢者の仕事の確保としてシルバー人材センターの充実、企業などの理解と協力を得ながら高齢者の方がいつまでも健康で生きがいを持つて働くことができるような環境整備を進めていかなければならないと考えている。

答 人工知能を利用したAI病院を産学官で推進すると国は言っており、健康寿命が延びることに期待している。（町長）